



六アークイブ: an-archive
記録を残すという営みを、記録が残らないこと、すなわち、記録の不在(六)から捉え直す反(an)アークイブのアーカイブの試み。昭和30~50年代にかけて市販された8ミリフィルムという映像メディアに着目し、世田谷のまち、ひと、くらしに光をあてる。2015年から始動。

POST-NOVIE
2021.10.06.
提供者です。生活工場、この長を閉鎖して下さりありがとうございます。
鑑賞のみならず、見てたときありがとうございました。
ここに載っているいくつかの質問にお答えします。
・昭和60年前に鎌倉二軒の通っていた際に、社会科の先生が何人か居
て、ビデオとして参加して、とても思い出です。
持っている箱は、ビデオの記録のテープとして、ヤチノ記念に入っている箱です。
・富裕層ではなく、公立中学校に通っていた、普通の中学生でした。
強いて言えば、地味な学校では、八幡宮の裏山に通っていました。
・昭和30年代は「ふるは5」と呼んでました。
・山下新らしめまで、当時8mm映画は、流行してありました。
・他に質問がある時は、生活工場へ問合せ下さい。
以上
世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83



六アークイブ: an-archive
せたがやアカカブの会 vol.27 (ハガキ方式)
開催方法: アカカブの会事務局に郵送した返信用ハガキに回答・返送してもらいました
募集期間: 2021年8月8日-10月7日
回答数: 10名 ※2021年9月8日-10月7日に生活工房で集めたハガキも記載しています

せたがやアカカブの会 The setagaya akakabu circle
六アークイブにおいてデジタル化した映像を、じっくり観ながら語り合う小さな集いの場。ほぼ毎月で開催。開催予定、上映内容は、生活工房HPPまたはお問い合せからご確認下さい。一見さん大歓迎。本誌「かぶうずら、やまいもうなぎ」は、当会の断片的・公式活動記録



キャプチャー画像
流鏝馬 | 昭和37年9月16日 | 鎌倉鶴岡八幡宮
3分26秒 | カラー
鎌倉鶴岡八幡宮で毎年9月に実施される例大祭での流鏝馬。中学時に提供者が参加した行列を父が撮影。多くの同級生も参加。提供者によれば、八幡宮の中の幼稚園で装束を着付けてもらったという。撮影者の父は貿易会社に勤めており、戦前・戦中には台湾や香港に駐在。5人兄弟のうち、台湾で生まれた提供者の兄弟(乳児2名)は、栄養失調のため引き揚げ船内で亡くなる

POST-NOVIE
流鏝馬
鎌倉の八幡宮でそのような
大騒ぎがあったとは知りませんでした。
和装するとか 50年前にはめずらしくなかつたのところが今では全く見られ
ない。其機会が少いので残念です。
戦前・戦中貿易会社にて 世田谷クロニクル
おつとめのお交さん、なつたあまさん、
Setagaya Chronicle 1936-83



参加者の記憶を媒介とした対面での「言葉の交流」を目的とする、せたがやアカカブの会。このたびのコロナ禍の状況を受けて、会員の皆さまが各自のお住まいから非対面的に参加できる〈ハガキ方式〉での遠隔実施を試験的にはじめました。

今回、各自の環境でご覧いただいた映像は「流鏝馬」(no.41、昭和37年夏撮影)でした。さて、どのような声が集まってきたのでしょうか。じっくりお楽しみください。

かぶうずら、やまいもうなぎ アカカブの会の記録2021 no.3 〈コロナ禍・特別篇〉
発行日: 2021年10月31日

お問い合わせ: 生活工房 03-5432-1543 info@setagaya-ldc.net
編集: せたがやアカカブの会世話人(松本篤、八木寛之、成田海波、ブルサコワありな)
主催・発行: 公益財団法人せたがや文化財団 生活工房
〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
http://www.setagaya-ldc.net/
企画制作: remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]
後援: 世田谷区、世田谷区教育委員会

本誌の無断転写、複製、転載を禁じます。



(あ) まだ生けていない

(い) このフィルムを撮影できるという事は、当時からずっと大変な金持ちでないとできないと思っておどろく。貿易会社に勤務していたので、とてもすごいと思った。このような行事は、コナが収まらないうちに再開して欲しいなと思うか。

(う) 37才 世田谷区



世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83



POST-NOVIE

(あ) 21才 北区田端

(い) 甲斐ごさいせん
「世田谷クロニクル」公開で視聴しています。

(う) 80才 世田谷区三宿



世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83



POST-NOVIE

栄養失調で引揚げ船で働くのが
なんて本当に悲しいエピソードですね。

知らない事を知る機会に感謝
したいです。

POST-NOVIE

(あ) 生まれていません。
ちょうど両親が生まれたか生まれていないかの位。

(い) 提供者の方は、なぜ参加したのか？
真城補作のオラスタ？
また、他にビデオカメラを持っている人がいないと
見当たらなかったが、気がなりました。
撮影者の方へ。

(う) 26歳 世田谷区



世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83



(あ) 5才くらい。

(い) この方は、どういう経緯でこのような大役(?)を
務めることになったのか、気になります。カメラ
はいっしょに参加した同級生も意識して追っ
ているようです。手に持っているカゴのような
ものは何なのか、どんな役割だったのか、聞いて
みたいです。

(う) 横浜市在住。64才。

*今年の流鏝馬は中止だそうです。
世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

POST-NOVIE

(あ) 生まれていません

(い) 私の父も8ミリカメラを撮影してくれたことを
思い出した。家族旅行とか運動会とかだったと思う
(昭和54-55年頃)。フィルムは今何処？ 子どもの時
に見てからそれより、父はビデオカメラはやらなかった。
学生時代の友人(大船在住)が「地元民は鶴岡
八幡宮のことを略して「つるばち」と呼ぶ」と言っていたが
昭和30年でもそうだったのだろうか？

(う) 世田谷区 49歳

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

POST-NOVIE

(あ) 生か木と女 - 20年

(い) 母親の実家の神社、踊子と大木の二本に
儀式？に参加した。赤土坊の坂。
その写真も思い出した

(う) 世田谷区 39才



世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83

POST-NOVIE

(あ) 生まれていません。両親もまだ出会ってない頃

(い) 少年がかわい、23歳な「えぼし」を、自分を
七五三で身につけた記憶あり。なれない、ぞうりで歩くヒ
余計に「えぼし」がぐらついて、首に回ったヒも心で悪
違和感あったかな……。七五三は、近所の大正寺で
やりました。

(う) 54才 世田谷区在住 (千葉県
市川市中山育ち)

世田谷クロニクル
Setagaya Chronicle 1936-83